

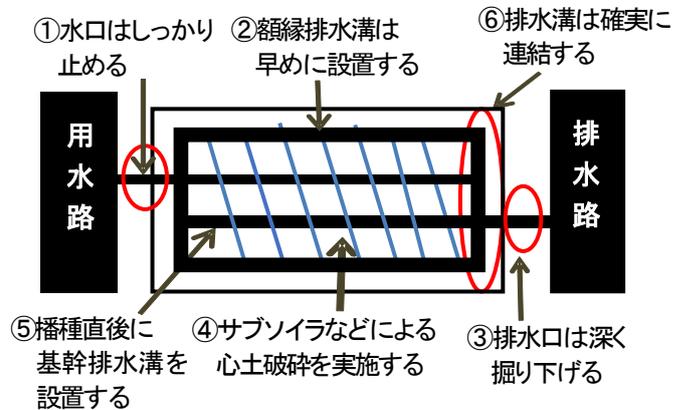
大豆栽培管理情報（播種）

令和 5 年 5 月 日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

○排水対策の徹底と適正な播種量で苗立ち本数を確保しましょう

1 排水対策

- ・用水路や水口、隣接の水田からの漏水がないか事前にチェックしましょう。
- ・額縁排水溝の設置と心土破碎は、早急に確実に実施しましょう。
- ・播種後は、播種によりできた溝と額縁排水溝の手直しを行い、必ず深く掘り下げた排水口に連結しましょう。



2 土づくり

- ・耕起前に石灰質資材を必ず施用し、大豆の好む土壌 pH (6.0~6.5) にしましょう。
- ・大豆の作付回数の増加に伴い地力が低下するため、堆肥の施用を積極的に行いましょう。
- ・麦跡では、麦稈の腐熟を促進させるため、基肥を窒素成分で 1.5~2kg/10a 増量しましょう。

【資材・肥料の施用量の目安 (10a 当たり)】

項目	資材名		単作	麦跡
石灰質資材	苦土石灰		100~200kg	
有機物	発酵鶏ふん		100~150kg	
基肥	BBO84 (10-18-24)	砂~壤土	20kg	35kg
		粘質土	15kg	30kg

3 種子消毒

- ・フタスジヒメハムシや茎疫病などの病害虫を防除するため、種子消毒は必ず行いましょう。

薬剤名	処理方法
クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg あたり原液 8ml 塗沫



成虫の食害は落花・落莢の原因となります



幼虫は根粒を食害！

4 播種作業

- ・耕起、砕土・整地、播種、作溝の一連の作業は1日で行いましょう。
- ・大麦の収穫後は、早めに大豆の播種が出来るよう作業計画を立てましょう。

【播種時期別の目標栽植本数】 ※令和4年産種子での数値

品種	播種時期	播種量 (大粒) (kg/10a)	栽植本数 (本/m ²)	設定条件 (条間 80cm の場合)			播種粒数 (粒/m)
				目皿	スプロケット		
					目皿側	車輪側	
えんれいの そら	5月25日 ～6月上旬	5.3～6.0	14～16	B-22	14	9～10	12～14
				B-2	10～11	13	
	6月中旬	6.0～6.8	16～18	B-22	13	10	14～16
				B-2	9～10	14	
シュウレイ	5月25日 ～6月上旬	4.9～6.1	12～15	B-3	10～11	11	11～13
					11	13	
	6月中旬	6.1～7.4	15～18		10	13～14	13～16
					9	14	

【播種作業のチェックポイント】

- ①降雨直後の播種作業は厳禁です。必ず乾いている条件で実施しましょう。
- ②目皿やスプロケットの組み合わせを確認し、播種時期に応じて播種量を調整しましょう。
- ③ゆっくりとした速さで播種を行いましょう (30aほ場を3連播種機で70分が目安)。
- ④播種量と播種深さ(3cm程度)が適正になっているか確認しましょう。

5 除草剤散布

- ・除草剤は、播種・覆土後、早めに散布しましょう。
- ・帰化アサガオ類、イヌホオズキ類などの難防除雑草の発生が見られるほ場は、雑草種に応じて防除効果の高い除草剤を選びましょう。

使用時期	薬剤名	10a 当たり散布量	難防除雑草の草種
播種後発芽前 (幼芽・幼根が種皮を 破って出る前まで)	サターンバアロ粒剤	4～6kg	帰化アサガオ類
	トレファノサイド粒剤 2.5	4～6kg	-
播種後出芽前 (地面から芽が出る前まで)	ラクサー粒剤	4～6kg	イヌホオズキ類 ヒユ類
	エコトップP 乳剤	500ml (希釈水量 100ℓ)	イヌホオズキ類 ヒユ類
	プロールプラス乳剤 (黄色着色注意!!)	500ml (希釈水量 100ℓ)	イヌホオズキ類

※ラクサー粒剤は、トレファノサイド粒剤 2.5 より比重が大きいため、過剰散布にならないよう機械を調整してください